

5, 本 時 案 - 第二次分 -

- (1) 主眼 絵を見て想像したことを、絵の中のベンチの視点に立ち、接続詞や擬音語・擬態語、会話文等の技法を用いて、リレー作文を書くことができる。
- (2) 準備 作文ヒント集(カード化して、封筒にひとまとめにしたもの)、公園の絵
- (3) 展開

前の学習	物語を書くために、公園の絵を見て想像したことを発表し合った		
	学習活動・内容	教師の支援・配慮事項	
	<p>1 公園の絵を見て想像したことを発表し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間、季節</li> <li>・ベンチが考えたこと</li> <li>・公園に来た人々のこと</li> <li>・公園に来た人々の性格</li> <li>・ベンチの思い など</li> </ul> <p>2 グループで、リレー作文を書いてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の設定、展開</li> <li>・ベンチの視点からの書きぶり (擬人化)</li> <li>・見えるもの、聞こえるもの、気持ち</li> <li>・会話文を使う</li> <li>・擬態語、擬音語を使う</li> <li>・接続詞に続けて書く</li> </ul> <p>4 リレー作文を紹介し合い、感想を述べ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いてみて思ったこと</li> <li>・他のグループの物語を聞いて思ったこと</li> </ul>	<p>自分が書こうと思った場面の絵について自由に発言することで、前時の学習を想起できるようにする。</p> <p>想像したことを、目に見えるもの、聞こえるもの、気持ち等に分類するよう促し、表現への足がかりとなるようにする。</p> <p>物語を書くための練習ラウンドとして、リレー作文を書いてみることをこどもたちに提案する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>リレー物語 書き方のルール</p> <p>書き出しは教師が設定(ベンチの視点での書き出し)</p> <p>一人制限時間2分で、1~2文を書く</p> <p>時間が来たら、次の人にまわす</p> <p>改行は自分の好きなときに行ってもよい</p> <p>文章に詰まったときは、<b>ヒントカード</b>を使う</p> </div> <p>会話文や擬態語、擬音語などの特徴的な表現技法に着目してほめるようにする。</p> <p>書き手としての感想(難しさ、おもしろさ)、聞き手・読み手としての感想(よさ、おもしろさ、つまらなさ)の両方を取り上げ、書くことに対する思いを各自が整理できるようにする。</p>	<p>・絵から、豊富な情報を生み出しているか (情報の量、種類に注目)</p> <p>・物語をつなごうとして書いているか(前の友達の内容にどの程度刺激されているかに注目)</p> <p>・表現を工夫しようとしているか(表現技法の種類に注目する)</p> <p>・書き手として、読み手としての思いがもてたか(ノートへの記述に注目)</p>
後の学習	リレー作文に続けて書き足したり、新しく創ったりして、物語を書く		